

社長のひとりごと【高齢者住宅】

全ての「社長のひとりごと」がWEBで読める!
『くぼかわよしみち.com』毎月20日更新!!

くぼかわよしみち.com

検索

ホームページ



『医は算術』ではなく『命を預かる』大切な
仕事なんですが…

アサヒグローバル株式会社 代表取締役
ゴールドトラスト株式会社 代表取締役
ゴールドエイジ株式会社 代表取締役
文/久保川 議道
text:Yoshimichi Kubokawa

- asahiglobal.co.jp
- global-mie.co.jp
- super-chintai.com
- goldtrust.co.jp
- goldage.co.jp
- kubokawayoshimichi.com

今、一番大変なのは『お医者さん』ではないでしょうか。国の医療保険の支出は年間30兆円を越えて、もうすぐ60兆円になるそうですね。ちなみに、介護保険の支出は、今は6兆円でもこれでも近々20兆円だそうです。国家の税収が44兆円しかないのに、誰が見ても異常で非常識な数字ですが、これが現実なんだから……仕方ありません。そんな中で、今年2007年4月から医療法人に「有料老人ホーム」の経営が解禁されました。又5月から「適合高齢者専用賃貸住宅」の経営もしても良いと言うことになったのです。一言で言つてこの「適合高専賃」は「介護付きの賃貸住宅」ですから、今まで医療法人は、アパート・マンションはやつてはいけなかったのに、介護をちゃんとやつてくれるなら、老人専用のアパート・マンション経営をやつてもいいですよと、厚生労働省が決めたのです。まあ、本心はやつてもいいですよ。ではなくて、「ぜひやつてください」と頭を下げて頼んでいる訳です。その理由は、お医者さんの医療報酬をどんどん下げていますから、老人の介護に協力してくれるのなら、アパート・マンションの経営で儲けてもいいです。と言つてことですね。

医薬分業になつてしまつて、お医者さんは収入が減つた上に、経費の節税もできなくなりましから、新しい売上と利益をあげましょう。と言つてことですね。そしてもう一つ、ちょっと嫌な話ですが、私達は亡くなる時には80%病院ですね。それを国は近い将来、自宅で80%の人に亡くなつてもらいたい。という大計画を立てているのです。まあこれも一言で言つと、亡くなる前の1週間で200万円から300万円の医療費が使われているからです。やらなくてもいい(?)延命治療や集中治療室に入れたり、この末期医療に膨大なお金がかかるのですが、もし自宅で80%の人がお亡くなりになれば、このお金はいりません。すごくはつきりした方針ですね。と言つてこととで、自宅とはアパート・マンションなどの借家も「自宅」ですから、多くの高齢者に、自宅に住んで、介護や医療を受けてもらいたいのが国の考えている計画です。ですから、今までは有料老人ホームや国の施設しかできなかった「介護や生活支援」をアパートやマンションでやつてもいいですよ。と法律を作つたのが2005年12月と2006年4月だったのです。そし

てこの「適合高専賃住宅」が「ゴールドエイジマンション」なのです。法律ができて、新しい形の理想的な高齢者住宅がやつとできるようになったのです。医療が病院から自宅へ変わつてゆくなかで、お医者さんもこれからは病院でじつとしていられなくなりました。24時間、夜でも往診に出かけますし、外来の患者さんは一切受けつけない「往診専門」のお医者さんがたくさんできました。これは秘密の話ですが、この往診専門の先生の方がすごく利益が出るのです。「在宅療養支援診療所」という新しい制度に厚生労働省は力を入れて、自宅での「お・亡・く・なり」を支援している訳ですね。すべての原因は国にもう予算はないと言つてこと。税収44兆円なのに、一般会計85兆円と特別会計175兆円(重複分除く)で合わせて260兆円の年間支出です。国民総生産の500兆円の半分ですね。ひどいものです。また国と地方の借金は1000兆円で政府系の特殊法人などの赤字と借金は400兆円ありますね。合わせて1400兆円が国の赤字です。国民一人当たり1200万円。4人家族で4800万円の借金……。考えただけで頭が爆発ですね。